

札幌市環境教育基本方針改定に向けた実践者ワークショップ

実施結果

実施概要

1 実施目的

札幌市環境計画基本方針の改定に向けて、環境活動等の実践者から広く意見等を聞き取ることを目的としてワークショップを開催する。

2 実施日時

平成30年8月30日（木） 18：15～20：45（受付開始17：45～）

3 実施会場

札幌市札幌エルプラザ公共4施設2階会議室1・2
（札幌市北区北8条西3丁目）

実施概要

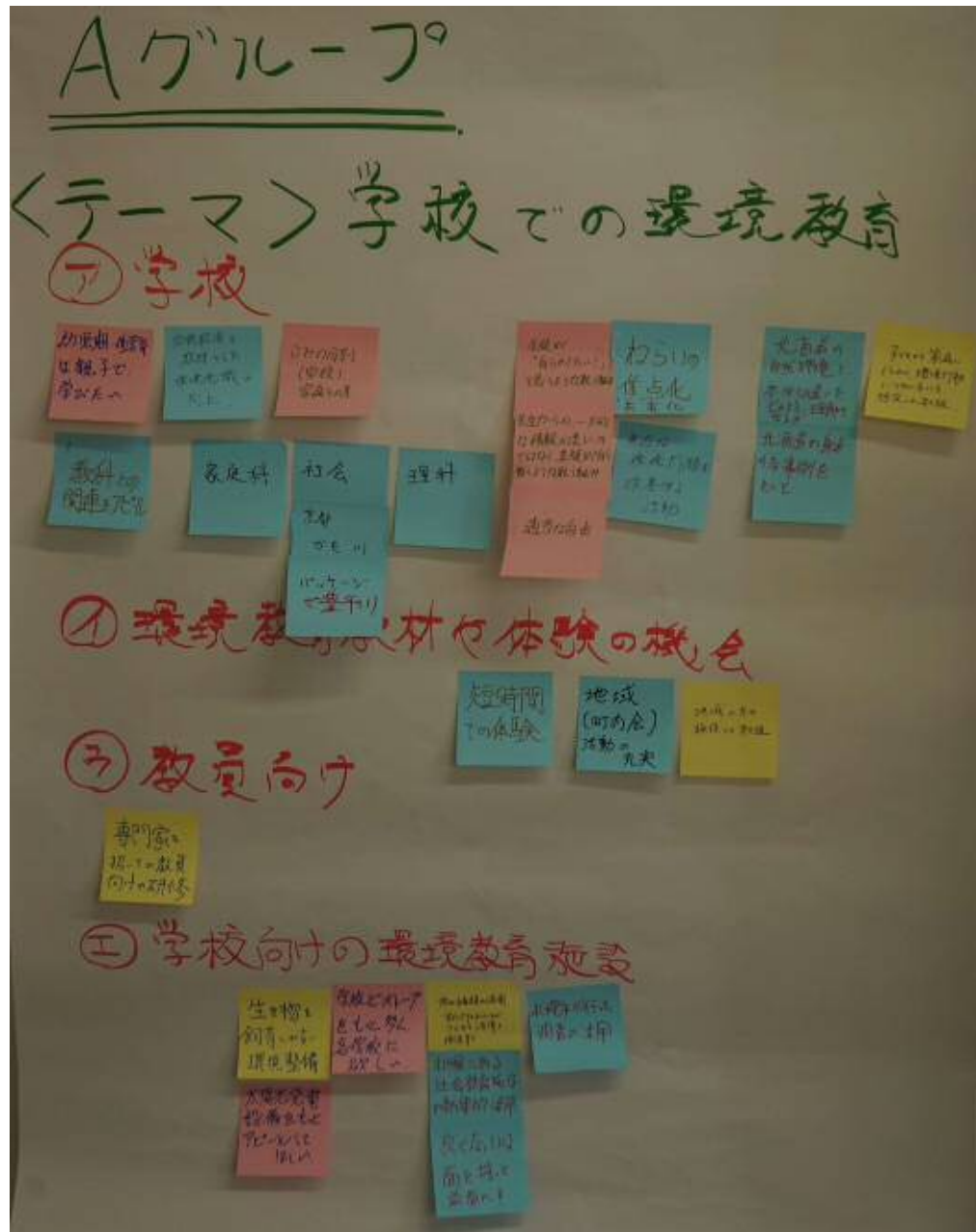
4 プログラム

時刻	項目	目安	内容
17:45	受付開始	30分	
18:15	開会	5分	<ul style="list-style-type: none">札幌市からあいさつおよび会議趣旨説明司会からワークショップの流れを説明
18:20	情報提供	20分	札幌市から基本方針素案について説明
18:40	意見交換①	30分	基本方針素案に関する意見交換
19:10	休憩	10分	
19:20	テーマ説明	5分	司会から「取り組みの柱」について説明
19:25	意見交換②	45分	グループごとに「取り組みの柱」を意識しながら意見交換
20:10	まとめと振り返り	10分	意見交換②についてグループ内で振り返り
20:20	グループ発表	20分	グループ内で話し合った意見を代表が発表
20:40	本日のまとめ	5分	まとめ
20:45	閉会		

Aグループのまとめ

テーマ	出された意見
<p>【学校等での推進】</p> <p>学校等で行われる環境教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会科の環境教育では、5年生の教科書で京都府の鴨川の事例が掲載されており、多くの学校で実践されている。例えば、豊平川のカムバックサーモンなどの地域の素材や活動で学習を展開できると良い。その際は、副教材や指導案、カムバックサーモンに関わる活動の資料等がパッケージとして整備される必要がある。 ・ 北海道の自然環境と本州の自然環境の差異を理解させるような、地域性を踏まえた学習が有効と感じる。 ・ 環境教育は、「家庭科」、「社会科」、「理科」などが関連するため、新学習指導要領で掲載されたカリキュラムマネジメントを実践できると望ましい。 ・ 幼児期や低学年においては、親子で学べるような体験メニューを用意することで、子どもと保護者の環境意識の向上に寄与すると思われる。 ・ 「学校給食」を教材とした環境教育を実践することで、環境意識の向上に寄与すると思われる。 ・ 学校は事業系のごみ処理であるため、ごみの分別が家庭のように細分化されていない。家庭と学校でのごみの分別ルールを統一する方が、環境意識の向上につながると思われる。 ・ 先生からの一方的な情報の流し込みではなく、児童、生徒が「自ら学習したい」と思うような取り組みメニューを複数提示し、一定程度の自由度がある方が、学習として価値があると思う。 ・ 子どもから家庭に伝わり、環境行動につながることを想定した取り組みを実践する方が良い。
<p>【学校等での推進】</p> <p>環境教育教材や体験の機会などの提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校は外国語学習の導入などの影響を受け、時間は限られている状況にあり、短時間での体験メニューがあると活用される。「短時間」は午前中で終了し、学校に戻り給食をとれるぐらいの時間帯を想定。 ・ 町内会等の地域活動との連携による体験学習ができると良い。
<p>【学校等での推進】</p> <p>教員向けの研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境の専門家を学校に招いて、教員向けの研修ができると勉強になる。 ・ 学校外の研修の際は、研修時期が夏休みや冬休み期間に開催されると比較的参加者が増えると想定される。
<p>【学校等での推進】</p> <p>学校向けの環境教育施設設備の整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生き物を飼育しやすい環境があると良い。現実として、生き物を教室で飼育しても夏休みや冬休みはクラス担任が自宅に持って帰り、飼育している実情がある。 ・ 都市部の学校においては、ビオトープを積極的に導入してほしい。 ・ 太陽光発電設備が導入されている学校においては、それを活用するような学習プログラムがあると良い。 ・ 札幌市の社会教育施設をより活用されると良く、さらに、改善されている面をPRすることが重要。 ・ 札幌市でさまざまな調査が実施されていると思われるため、それらのデータやグラフ・写真等を教員が活用できるようにすると、環境学習が発展すると思う。

ワークショップ時のまとめ【Aグループ】



Bグループのまとめ

テーマ	出された意見
<p>【環境人材の育成】 (人・お金・ガバナンス)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他市と比較しながら評価すべき。 (札幌市としてファシリテーターは足りているのか/「器」と「人」が不足しているのでは?など) ・ 環境保全アドバイザーなどの派遣をしているが、どういう専門家がいるのか分からない。 ・ 人材だけでなくお金がないと動けない中で、ガバナンス(統治)はどうなっているのか? ・ 人材はいるがつなげることが難しいという側面もある。 → 人がつながっていく中で、人材が見つかり、人材が育っていく という流れが大切。 → 人をつなげるコーディネートが重要(P35の図をより具体的に改善すべき)。
<p>【環境人材の育成】 (コーディネート)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門家を増やすのは難しいが、さまざまな専門家(例えば植物に詳しいおじいちゃん)は地域に埋もれている。この人たちをどう見つけてどうつなげていくのかがポイントなのでは。 → コーディネーターは「地域にいる」! → 人と自然をつなぐことが、いつの間にか人と人、コミュニティをつなぐことになっていく、そういった展開が取り組みの持続、社会の持続において重要。
<p>【環境人材の育成】 (生業とボランティア)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若者の視点としては、環境保全アドバイザー・環境教育リーダーになっても「食べていけるのか」が重要。 ・ 環境、自然保護の活動は職業ではなくボランティアになっているのが現状。 → 例えば、エコツーリズムの視点を加えることで、ビジネスとして継続する可能性がある(人材が活躍する場、お金になって継続するきっかけづくりとして有効)。 ・ 一方、お金と違う価値観で携わっているというのも大切。
<p>【環境人材の育成】 (学習・学校・教育)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校はやることが多く、新しい取り組みは難しい。 ・ 小中学生は時間が足りない/中学生の学習は「作業化」になりがち。 → 放課後活動を活かせば、自発的な取り組みとなり学習効果も高いのでは。 ・ 先生自身の自然体験がない(少ない)ので、学校での学習には限界がある。 ・ また、自然体験には地域差もある。 ・ 自然で育つ中で身に付けたことは忘れないが、教科として教えられた場合は実感もなく身に付きにくい。 ・ 「持続可能性」という言葉は多義的であり、その概念を理解させるのは難しい → 中学3年間を通じて、知恵、自分なりの答えを出す、突き詰めていく、そのような取り組みがあれば良いと思う。
<p>【環境人材の育成】 (生涯学習の視点)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「生涯学習」というとき、「高校生～社会人の学習機会についての視点」が抜けることが多い。 ・ 町内会(の集まり)での勉強の機会・場を生かすべき。
<p>【環境人材の育成】 (環境人材の底支え(ボトムアップ)と高度化(トップランナー)に向けて)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境教育はどこまでやるのか? 求められるレベルが分からない。 ・ 底支え(ボトムアップ)と高度化(トップランナーの育成)は両方必要。かつ、分けて考える必要がある。 ・ 底支え(ボトムアップ)を目的とした「義務化」は重要。 → 義務化の部分は学校教育と連携していくのが理想。

ワークショップ時のまとめ【Bグループ】



Cグループのまとめ

テーマ	出された意見
<p>【環境教育・環境学習の場と機会の充実】 (場の充実)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 環境プラザや動物園など、環境学習ができる施設は市内に十分備わっている。 しかし、それらの施設がどこにあり、どのような利用・学習ができるのかという情報は一元化されていない。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 環境施設マップや利用の手引きの作成（所在地、アクセス方法、学習できるテーマ、といった情報を記載）。 ⇒ 環境施設スタンプラリーといった取り組みも有効ではないか。 また、イベント等での利用がメインとなることから、日常の環境活動につながりにくいという課題があると思う。 「気軽に参加できる場」または「日常生活に溶け込みながら環境を学習できる場」の創出が必要。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 公園の活用 日常的に誰もが利用できる公園を活用する。 ビオトープの形成や規制緩和による活用の範囲を広げることも必要。 ⇒ 学校の活用 校内での自家発電やごみの再資源化など、設備整備も必要。
<p>【環境教育・環境学習の場と機会の充実】 (機会の充実)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 環境学習の場に参加するためのきっかけづくりが必要。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ イベントの展開。 ⇒ 学校行事や地域の祭りなどとの連携。 日常的に環境を意識するためのきっかけづくりが必要。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 資源ごみ回収場所の増設。 ⇒ 日常の行動における環境的数値の見える化（CO2排出量、食品ロス率）。 ⇒ 環境配慮商品に対する付加価値（マーク等の設定および該当商品利用促進）。 ⇒ 環境イベントに参加した方への追跡アンケートの実施。
<p>【環境教育・環境学習の場と機会の充実】 その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> 環境学習をした後の行動推進。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 学習前後の生活変化の見える化。 ⇒ 家庭でできる環境活動チェックシートの作成・配布。 環境学習をした後の行動変化のフィードバックの場の形成。 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 行動を変えても評価してもらえないのでは続かない。 ⇒ 行動変化の発表の場として、環境施設の掲示板等を利用解放 ⇒ これがまた次の人の活動につながっていく。 ⇒ 定期的な追跡調査を実施。 単に環境に配慮した行動を促すだけでなく、将来的なビジョンを見せたり、考えたりすることで、環境に配慮した行動の重要性を示していく場をつくることが重要。

ワークショップ時のまとめ【Cグループ】



Dグループのまとめ

テーマ	出された意見
<p data-bbox="219 603 430 705">【環境教育・環境学習の場と機会の充実】</p> <p data-bbox="257 746 383 775">場の充実</p>	<p data-bbox="488 268 721 296">【イベントの実施】</p> <ul data-bbox="488 304 1482 406" style="list-style-type: none"> ・ 地域ごとに環境イベントを実施する。 ・ 市内学習施設が集まって大きなイベントまたは協議会を設置する。 ・ 環境広場でクリアファイルを配布するような矛盾を解消する必要がある。 <p data-bbox="488 443 667 472">【事業者連携】</p> <ul data-bbox="488 480 2027 687" style="list-style-type: none"> ・ 学生による事業所の視察や職場体験を行う。 ・ 見られることにより、働き方を意識するのではないか。 ・ 視察を受け入れる施設間で協力体制を構築する。 ・ 視察のルート行程を考慮するのではなく、幅広い事業者を対象とした大人の（汚い部分等も見せる）工場見学を行う。 ・ 民間事業者の各分野のスペシャリストによる体験メニューを活性化する。 <p data-bbox="488 724 577 753">【広報】</p> <ul data-bbox="488 761 1834 863" style="list-style-type: none"> ・ 事業者が行っている環境教育系の活動の広報を行政が集約し発信する。 ・ 事業ごとの環境負荷を明確化すべき。 ・ 環境に興味を持ってもらうには限界があるため、現在に危機感を持ってもらえるような工夫が必要。 <p data-bbox="488 900 810 928">【札幌市の特徴を生かす】</p> <ul data-bbox="488 936 1570 1112" style="list-style-type: none"> ・ 表面的な環境インフラを学ぶだけでは意味がない。 ・ 人工林等の悪い部分にも焦点を当てるべき。 ・ 環境学習の意義や意味を可視化する。 ・ 定期的な学習を行う機会を設けるべき。 ・ ガイドラインを作成し、効果を測定することで行政が補助を行う仕組みを作る。
<p data-bbox="201 1145 412 1209">【学校等での推進】</p> <p data-bbox="215 1251 421 1279">教員向けの研修</p>	<p data-bbox="488 1161 698 1190">【教員への指導】</p> <ul data-bbox="488 1198 1599 1300" style="list-style-type: none"> ・ 学習指導要領に基づく授業づくりを行う必要がある。 ・ 研修会の開催など、教員の環境学習の場づくりが必要であり、行政も支援すべき。 ・ 学習指導要領など、授業の型をつくる。

ワークショップ時のまとめ【Dグループ】



Eグループのまとめ

テーマ	出された意見
全体について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文章中に「SDGsの理念に沿った」と記載があるが、その理念が書かれていない。 → 記載が必要 ・ 「情報発信と後押し」の文章中に、「関心の高くない市民に向けて自ら課題として捉えてもらう」とあるが、カテゴライズしてアプローチするのは難しい。 ・ 「知らない人に教えてやる」といった立場の素案の方針は、あまりいいものとは言えない。 ・ SDGsの中でも、環境と社会と経済を同時解決すると謳われている、その人の課題に寄り添っていくことが大事。その個人の課題解決をしていくことで、環境の課題を進めていくことができるのではないか。 ・ 4つの分野（健康で安全な環境の確保・低炭素社会の実現・循環型社会の実現・自然共生社会の実現）を横断する（つなぐ）観点をどう入れるか。
【情報発信】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関心が高くない人たちが、どのようなものに関心を持っているかを知ることから始めるべき。 → インスタ等のSNSの活用。 → 経済的なメリット（インセンティブ）の付与。 ・ SDGs・PPAPの取り組み → 参加者の中学生がインスタグラムを使って情報発信を行っている。 ・ 人が人に伝えるが大切。 【例】札幌市職員に環境に特化した研修を実施 → 職員一人一人が個人的に発信できるようにする。 まちづくりセンターもメディアの場 → 所長が町内会で発信する。
【学校等での推進】 【自然共生社会の実現】	<ul style="list-style-type: none"> ・ 札幌市は森が多い環境なのに森林に関する教育が少ない。 → 市内小学校の5年生は「青少年の山の家」に研修に行く。その場を活用して、森のことや開拓の歴史などを伝えてはどうか。
【環境教育・環境学習の場と機会の充実】	<ul style="list-style-type: none"> ・ イベントの質の向上。 ・ 高校生が対象となったイベントが少ない → 対象にとどまらず、イベントの企画から参加し、発信する側として取り込んでいくのがいいのではないか。 ・ 子どもとユース（高校生～30代）が一緒に取り組めるイベントの企画も重要。

ワークショップ時のまとめ【Eグループ】

